

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『自ら学び ともに豊かな生活を創り出す子どもの育成』～おもいやり すすんで行動 だれとでも協力 恩田の子～  
 自ら問題を発見し、課題解決に向けて主体的に考え、身に付けた知識や技能を生活に生かしたらかせる子【知】  
 自ら正しい判断を行い、他者の立場や気持ちを思いやり尊重し合って生活する子【徳】  
 心身の健康に関心をもち、自ら進んで運動を継続的にを行い、心身ともにたくましく生きる子【体】  
 自分の役割や働くことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働しながら課題解決に向けてと取り組む子【公】  
 自他の違いを受け止めともに生きる力を育み、グローバルな視野をもって持続可能な社会の実現に向けて行動する子【開】

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

ESDを基盤とした資質・能力から  
 「批判的に思考し、判断する力」  
 「多面的・総合的に考える力」  
 「コミュニケーションを行う力」  
 「他者と協働する態度」  
 「つながりを尊重する態度」

具体化した資質・能力

考えて行動する力(判断する・選択する・決断する)  
 表現する力(コミュニケーション能力)  
 相手意識・集団意識

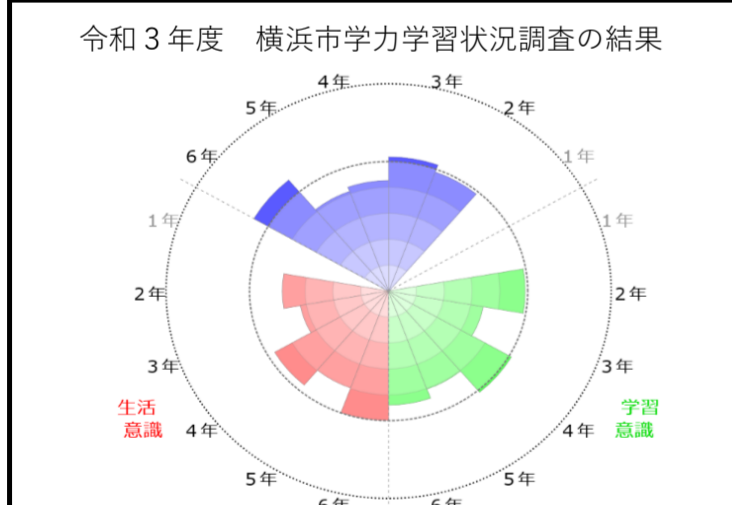
中期取組目標

○「子どもを育てる」学校から「子どもが育つ」学校にしていきます。  
 「自分たちでやっていいんだ」という実感と手応えをもてる授業づくりを目指します。  
 ・全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを一体的に実現できるようにします。  
 ○子どもたちが安心して自己発揮できる学校を、教職員、家庭、地域の方、みんなで創っていきます。  
 「子どもは学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手である」という肯定的な子ども観をもち、子どもの視点に立って考え、人権を尊重します。  
 ・手応え感覚(①充実感②達成感③自己有能感④一体感)を高めていけるよう、価値ある体験ができる環境づくりを学校教育全体で大切にしていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらき	①生活科・「横浜の時間」を中心として地域の材を活用し、子どもが自ら課題をみつけ主体的に解決できる力を育む。②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。③どの学年もスタートカリキュラムの視点を持ち、これまでの子どもの学びや気づきを大切に活動を展開する。
担当	学校運営部C

学力向上に関わる本校の状況



(1) 学力の概要と要因の分析  
 学力については、学年により差が見られるが、全体的に低下している傾向がある。また、昨年度は、学習意欲や生活意識が全体的に平均を下回る結果となった。学年ごとの実態を把握した上で、学習や生活に対する意識を高め、学力を高めていけるように、意図的・計画的に指導をしていく必要があると感じる。  
 基礎・基本の定着を図るとともに、これからの時代に必要な力をふまえて、学習を通して学んだことを活用していく力・他者とのコミュニケーション力もつけていくことも必要であると考えます。  
 (2) 教科学習の状況  
 ○国語科: 全体的に国語への意識が特に低い傾向にある。知識面、思考面ともに伸ばしていく必要がある。  
 ○社会科: 国語ほどではないものの、こちらも意識が低い。全体的には、知識の部分が低い傾向にある。  
 ○算数科: 比較的意識が高い教科であるが、学力は平均を下回っている。全体的に思考の方がよくできていた。  
 ○理科: 学習意欲は平均を下回っている。学年に

今年度の目標

基礎基本の定着を大切にしつつ、つながりの中で互いに高め合っていく授業を展開し、自己の表現力、相手を認めていくコミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力を高めていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
①子どもが「分かる」授業づくり。朝学習等を活用した、スキル学習の継続。家庭学習で家庭とも連携しながら、学習習慣を身に付けさせる。これらの取組から、学習が「分かる」から「楽しい」、「もっとやってみよう」という学習意欲の向上といったサイクルを構築していきたい。 ②生活科・『横浜の時間』を中心として地域の材を活用し、子どもが自ら課題をみつけ、主体的に課題解決に取り組めるようにする。	①子どもが「分かる」授業づくり。朝学習等を活用した、スキル学習の継続。家庭学習で家庭とも連携しながら、学習習慣を身に付けさせる。身に付けてきた基礎・基本の学力を基に、友達と協働して解決していく学習展開を図る。 ②生活科・『横浜の時間』を中心として地域の材を活用し、子どもが自ら課題をみつけ、主体的に、また協働的に課題解決に取り組んでいくことで、情報を共有し、思考力・判断力・表現力を高めていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳の時間を要とした道徳教育の推進。②たてわりペア活動での異学年集団による様々な活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる。③自然体験などの体験的な活動を充実させ、自然から得られる感動や人とのつながりから得られる相手を尊重する態度、感謝の気持ちを育てる。
担当	学校運営部C

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態  
 全国学力状況調査の児童質問紙の回答から以下の状況が伺える。  
 生活面の「学校に行くのが楽しいと思う」では、全国平均を上回っている。安心感をもって学校生活を送れていることが伺える。  
 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、全国平均を大きく上回りました。生活科・総合的な学習の時間などで多くの地域の方々、積極的ににかかわってくれていることが影響していると考えられる。「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていきますか」では、全国平均を上回った。一方、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」では、全国平均を下回っている。



今年度の目標

・自分も他者も大切にし、人を思いやり協働しながらよりよく生きることができるようになります。  
 ・探究的な学びを通して、「わかる」「できる」を実感し、学んだことを日々の学びや生活の中で活用できるようにします。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
「道徳の時間」の充実 道徳の時間を要とした道徳教育の推進と、その時間の在り方の学びを行う。 ・道徳教育について、家庭、地域に発信する。 ・学校だより、学級だより、保健だより等にて家庭・地域に発信し、意識の啓発を図るとともに、連携して子どもを育み、家庭・地域の指導力を 道徳の時間に生かす。	「身近な人との関わりを重視した活動」の充実 他学年や地域の人など、身近な人との関わりを重視した学習活動を展開する ・縦割り活動など異年齢活動を充実させる。 「児童会活動」「クラブ活動」「縦割り集団活動」「委員会活動」などの異年齢集団活動をより自主的・意欲的に行うようにする。 ・主に『横浜の時間』や生活科の時間を中心に、他学年や地域の方の協力を得ながら、身近な人との関わりを重視した探究的な学習が展開できるように計画・支援をしていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①給食を通して、食の大切さを理解しバランスのとれた食生活について理解する。②体力向上に向けて、しっぽりとやなわとび等、感染症対策を取りながら、年間を通して運動に親しめるように取り組む。③保健体育の授業を通して、保健的な知識を学び、実生活で活用できるように自分事として事柄を考える学習に取り組む。
担当	学校運営部B

健やかな体に関わる本校の状況

令和3年度実施の横浜市立小中学校児童生徒 体力・運動能力調査結果から、令和元年度に比べて、ほぼ全ての学年において体力の低下が見られたとのことで、特に、全身持久力や筋持久力、敏捷性を測定する項目での数値の低下がありました。運動を長く続ける力である持久力の低下は、運動習慣との関連が高く、コロナ禍における運動機会の低下や運動への取組み方が影響していると考えられています。  
 このことから、継続的に運動を実施することが重要であり、コロナ禍においても可能な持久力の向上に向けた取組を実施していくことを目標に今年度の目標を立てていきたいと考えます。  
 また、調査結果によると、1日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間が「3時間以上」と答えた児童生徒の割合が上昇傾向にあると受け取り、「3時間以上」視聴していると答えた児童生徒の体力合計点は、視聴時間が短い児童生徒に比べると、低い傾向が見られたとのことでした。  
 そのため、子ども自身が自分の生活を振り返り、生活習慣を改善していけるようにご家庭とともに歩んでいきたいと思えます。

今年度の目標

感染症対策を講じながら出来る運動に親しみ、体力の向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
①給食の時間に、栄養士の先生から食事のバランスに関する放送を適宜し、食の大切さやバランスのとれた食生活について学ぶ機会をつくる。 ②体力向上に向けて、年度を通して運動委員会の計画・立案によるしっぽりとやなわとび等の集いを休み時間に行い、運動に親しむ機会をつくるとともに、体力の向上を図る。	①給食の時間に、栄養士の先生から食事のバランスに関する放送を適宜し、食の大切さやバランスのとれた食生活について学ぶ機会をつくる。 ②体力向上に向けて、年度を通して運動委員会の計画・立案によるしっぽりとやなわとび等の集いを休み時間に行い、運動に親しむ機会をつくるとともに、体力の向上を図る。 ③保健体育の授業を通して、心身の発達や怪我や病気の予防、環境整備等の保健的な知識を学び、実生活で活用できるように自分事として考えさせながら学習に取り組む。